

# 高橋勇吉の

# 天文堀

平成十一年五月五日号

大野新田に「天文堀」と呼ばれる排水路がありました。天文堀がなかった江戸時代後期まで、大野新田の周辺はたびたび洪水に遭っていたそうです。

今回は、高橋勇吉がつくった天文堀を紹介します。

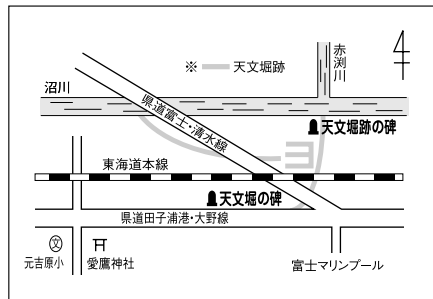
昔、沼川から浮島の一帯の田は大雨が降ると湖のようになり、人々は大変困っていました。天保七年（一八三六年）、全国的に大飢饉ききんのこの年、秋の大雨で大野・桧・田中の三新

田の稲も全滅してしまいました。食べ物も底をつき、餓死する人も出たほどでした。

このとき、大野新田に住む高橋勇吉は、この土地を何とかしようと排水路をつくることを提案しました。

しかし村人や役人は、できるはずがないと相手にしてくれません。それでも勇吉はあきらめず、新田を見つめては排水路のつくり方を考えていました。

それから九年後、またも大飢饉が起こりました。勇吉は直接江戸の奉行所へ工事の願いを出しましたが、村人が奉行所へ直接訴えることは禁止されていたので、取り押さえられ牢ろうに入れ



られてしまいました。そして厳しい取り調べの末、ようやく工事の許可が出されました。

勇吉は、財産を全部なげうって排水路の資金に充て、十五年もかけて排水路をつくりました。完成した排水路は、勇吉が天文学にも大変詳しくかったことから「天文堀」と呼ばれるようになりました。

### 高橋勇吉の子孫

#### 高橋正美まさみさん（桧新田）

天文堀をつくった後、勇吉は豆腐屋をして生計を立てましたが、その生活はとても苦しかったようです。

よく小さいころ、母親から「天文堀をつくったことを自慢してはいけません。また、財産を失ったことを悔やんではいけない」と言われました。また、祖父に勇吉の手記を読み聞かせられたことも覚えています。

◀ 天文堀跡に建てられた碑



▲ 高橋勇吉の生家隣にある天文堀の碑

そのころ農家では、天文堀に川船を浮かべて稲を運んでいました。水がきれいで子どもたちはよく天文堀で釣りをしました。ナマズやウナギなどがよく釣れ、シジミやトンボ、蛸もたくさんいました。その天文堀も、戦後になって土地改良や道路整備に伴いなくなりましたが…。